

られなかつた。今回は更にこれらの相関性を追及するため、CPZを中心に精神安定剤であるベルフェナジン(PZC)、ハロペリドールについても抑制濃度、経時的回復について検討したので報告する。

実験方法：前回同様に摘出モルモット回腸を材料とし、マグヌス法により Locke 液を用いて29°Cで反応を観察した。

結果：1) ハロペリドールの抑制作用における対応有効濃度は、Achにおいて10.0 μ M、Histにおいて1.0 μ Mであることが確認された。2) ハロペリドールのAch反応抑制を見ると、10.0 μ Mにおいては抑制は僅かであるが100 μ Mにおいては完全に抑制され、しかもそれぞれの経時的回復は完全であり近似している。3) PZCのAch反応抑制作用は1.0 μ Mにおいては見られず、10.0 μ Mにおいて殆ど抑制、また洗浄後の回復が見られた。しかしHistの反応に対してはPZC 0.2 μ Mにおいて完全抑制し、0.1 μ MではHistの高濃度に対し50%の抑制を示した。4) CPZ, PZC, ハロペリドールによるHistの反応の50%抑制濃度はそれぞれ4.7 $\times 10^{-2}$ μ M, 1.56 $\times 10^{-2}$ μ M, 2.5 μ Mであつた。

3. マウスの乳酸脱水素酵素について

(第1解剖)野田 節子

多くの哺乳類、鳥類の組織の乳酸脱水素酵素(LDH)は、5つの主要なアイソザイム(LDH-1, -2, -3, -4, -5)で構成され、その組織における分布は著しい特異性を示す。この5つのアイソザイムの他に1963年BlancoとZinkhamおよびGoldbergによつて思春期後のヒト精巣に特異的な第6番目のLDHアイソザイム(LDH-X)が発見されて以来、数種の動物においてもその存在が明らかにされてきた。私もセルローズアセテート膜電気泳動法により、LDH-Xの生物学的性質を調べているが、今までは25g~28gのマウスを成熟マウスとして使用実験したが、最近40gのマウス精巣を泳動し、基質として乳酸ナトリウムとDL- α -ヒドロキシバレリアン酸の比較染色を行なつたところ、LDH-Xの1側にもう1本のLDH活性を持つ新しいバンド(仮にバンド-X'としておく)がみられた。このバンド-X'についてその性質を調べた結果、① その出現はLDH-Xに依存していて、活性もXの活性とほぼ比例関係にあること、② マウスのLDH-Xに基質として特異的に反応するDL- α -ヒドロキシバレリアン酸の活性を持たないこと、③ 精巣、精巣上体でみられるが、他の組織および精巣上体内、受精後の子宮内精子には全くみられな

いこと、④ 組織ホモジネートの泳動ではみられるが、4,000rpm遠心の上清ではみられないこと、⑤ 熱抵抗性は、60°C、60分間のインキュベーションで、LDH-Xの活性は残っているが、X'は全く消失してしまうこと、⑥ ナッシングでは活性を示さないこと、がわかつた。以上より、このバンド-X'は、非常に不安定であり、LDH-Xに精巣内のある物質が結合し、それによつてDL- α -ヒドロキシバレリアン酸特異性を失つたものではないかと考えられるが、なお今後の定量的な実験を待たなければわからない。LDH-Xはその存在の有無、数、基質同族体を利用しうる能力等、動物により多様であり、このバンド-X'についてもLDH-Xとの相互の量的関係を調べていくことは、LDH-Xそのものの性質を知るうえで興味あるものと考えられる。

4. 種子骨嵌入により、偽修復された母趾関節背側脱臼の1例

(整形外科)

○林 美代子・増淵 正昭・並木 脩
(水野病院)水野 昭平

今回われわれは、徒手修復、種子骨が関節内に嵌入した状態で偽修復され、観血的修復を要した母趾I P関節背側脱臼の1例を経験したので報告する。

症例：14才男、昭和49年5月17日、外傷にて右母趾I P関節背側脱臼を受けた。麻酔下にて直ちに徒手修復をしたが、数日後同部に疼痛の持続を訴えて来院。X-Pにて種子骨のI P関節内嵌入を発見され5月25日入院、観血的に種子骨を修復した。

種子骨がI P関節内に嵌入し、修復を妨げた母趾I P関節背側脱臼の症例は、Müllenを始めとするが、内外に数例の報告をみるのみできわめて稀である。また母趾I P関節の種子骨は100%存在するものではなく、その出現頻度は報告により種々で、われわれもその頻度を調べてみた。種子骨が背側脱臼の修復後に、関節内に嵌入しやすいのはその解剖学特色による。

5. 開心術後、経中心静脈高カロリー輸液が救命的効果を奏した1例

(心研外科)

○日野 恒和・開沼 康博・今井 康晴
今野 草二

ECDでMVR, TVR施行後、LCO S, メレナ、下痢を呈したPoorrisに患者にIVHを施行して見るべき効果を得た。開心術後のIVH施行の報告は未だ少なく、今回その意義、適応等を検討した。